

工学部工学科のアドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

本学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性が豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そこで、以下に示す「入学後の学修に必要な能力・適性」を多面的かつ総合的な評価手法によって選考し、受け入れます。

- 1) 工学技術者を目指し、地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人（主体性）
- 2) 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人（主体性）
- 3) 大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な協調性及びコミュニケーションの基本的なスキルを身に付けた人（協働性、表現力）
- 4) 工学における多様な分野にも興味を持ち、創造性豊かな技術力と問題発見・解決能力を身に付けて社会に貢献する意欲のある人（学問への関心、思考力）
- 5) 工学専門分野を修得できる基礎学力を有する人（知識・理解、思考力）

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程・後期日程）

高等学校までに修得した基礎的学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入学共通テストと個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。また、調査書を用いて主体性について評価します。

2) 総合型選抜

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的にかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

高等学校での学業成績が優秀だけでなく様々な活動を積極的に行った者に対して、第1次選考（調査書、自己推薦書、活動報告書）及び第2次選考（筆記試験・個人面接・集団討論・小論文）によって多様な能力を総合的に判断します。

第1次選考において、調査書では、知識・理解について評価します。自己推薦書では、表現力、学問への関心について評価します。活動報告書では、表現力、主体性について評価します。

第2次選考では、知識・理解、思考力、主体性、協働性、表現力、学問への関心について評価します。

3) 私費外国人留学生入試

外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。さらに、協調性およびコミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。